

## ナスの異なる仕立方で収量性と果実品質（緊急要請課題）

～切り戻しの終了時期に着目して～

荒木俊光・海保富士男・野口 貴

（園芸技術科）

---

【要 約】 乾燥の影響を受けた本年の結果として、9月まで側枝1果取りをすることにより、10、11月の可販果個数を増加することが可能である。千黒2号は、放任区で全体の可販果個数が多かった。

---

### 【目 的】

昨年まで「側枝1果取り切り戻し栽培」の4本仕立て、2本仕立ての有利性、2本仕立てでの適正株間について明らかにした。今年度は、側枝1果取りにおける、適正な切り戻し終了時期を、収量性の面から明らかにする。

### 【試験方法】

品種は「千両二号、千黒2号」を供試した。台木品種「トナシムハイダッシュ」を2008年12月26日、穂木品種を2009年1月24日に播種し、3月3日に接ぎ木を行った。定植は4月23日に、条間210cm、株間60cm(794株/10a、主枝4本仕立て)で行い、1区7株の2連制とした。定植後5月14日までタフベルでトンネル被覆した。施肥は成分量でN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを50-25-50kg/10aを施用した。整枝・剪定は8月末または9月末に終了するまで、V字誘引・側枝1花止め・わき芽1芽残し・切り戻し収穫とした。その後は放任とした。7、8、9月に各1回畦間灌水を行い、病虫害防除は適宜行った。

### 【成果の概要】

- 1) 乾燥の影響を受けて、例年より収量は少なかった。平均1果重は、各区約100gであった。千両二号では、総収穫個数は、「放任区」、「9月から放任区（以下9月区）」はほぼ同数で、「10月から放任区（以下10月区）」でやや少なかった。可販果個数は、「放任区」が他の区よりやや少なかった。千黒2号では、総収穫個数、可販果個数とも「放任区」、「9月区」、「10月区」の順であった（表1、図1）。両品種とも可販果率は「10月区」、「9月区」、「放任区」の順であった（表1）。
- 2) 月別可販果個数は、千両二号では、6～8月は差がなかったが、9月では、「放任区、9月区」に比べて「10月区」が少なかった。しかし10、11月では、側枝の短い「10月区」が多かった。千黒2号では、月別可販果個数は、乾燥が激しかった7、9月で「放任区」が多く、10、11月では、「9月区、10月区」が多かった（図2）。
- 3) 月別下物個数は「放任区」、「9月区」、「10月区」の順で、側枝が長い区ほど多かった。特に、台風11、18号の後の9、10月で「放任区」が多かった（図3）。下物の内訳では台風後のスレ果、果実肥大が遅くなる10、11月の割れが「放任区」で多かった（表2）。
- 4) まとめ：9月まで側枝1果取りをすることにより、10、11月の可販果個数を増加することが可能である。千黒2号では、全体の可販果個数は放任区が多かった。
- 5) 留意点：乾燥年には十分な灌水を行わないと、全体の収量が少なくなるので、側枝1果取りの開始時期、終了時期を考慮する必要がある。

表1 側枝一果取りから放任にする時期と収量、品質（10a 当たり）

品種	放任時期	総収穫 個数 (個)	可販果 個数 (個)	うちA品 (個)	うちB品 (個)	下物 (個)	総収量 (kg)	可販果 収量 (kg)	可販果 1個重 (g)	可販果率 (うちA品) (個数%)
千両 二号	放任 <sup>a</sup>	137,327	89,076	49,499	39,577	48,252	13,759	9,311	105	65(36)
	9月から放任	135,173	92,364	53,241	39,123	42,809	13,560	9,648	104	69(40)
	10月から放任	122,756	92,024	53,922	38,102	30,731	12,807	9,917	108	75(44)
千黒 2号	放任	151,106	103,478	59,422	44,056	47,628	14,890	10,626	103	68(39)
	9月から放任	131,034	95,993	59,081	36,912	35,041	13,284	10,040	105	73(45)
	10月から放任	120,147	90,040	54,886	35,154	30,108	12,059	9,301	103	75(45)

注) 虫害被害等のないものをA品、わずかにあるものをB品とした。a) 放任区は8月11日にV字仕立ての中央部を剪定した。

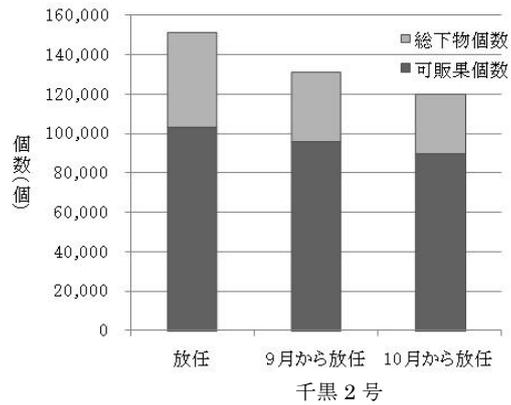
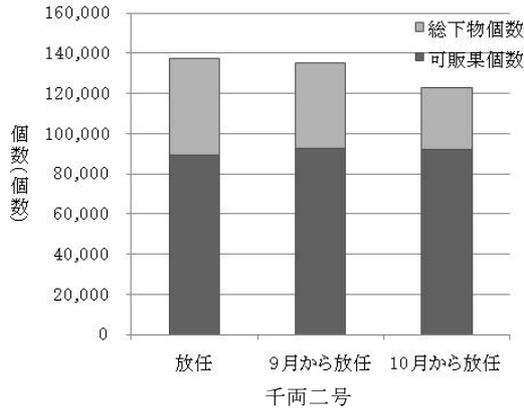


図1 各区の総収穫個数と可販果個数

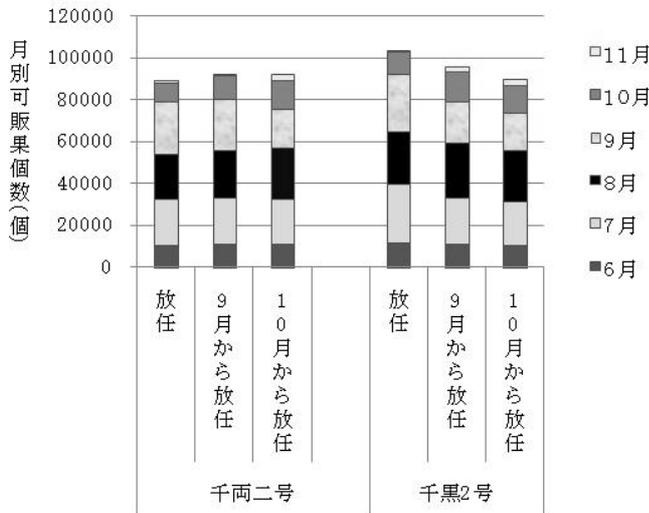


図2 各区の月別可販果個数（10a 当たり）

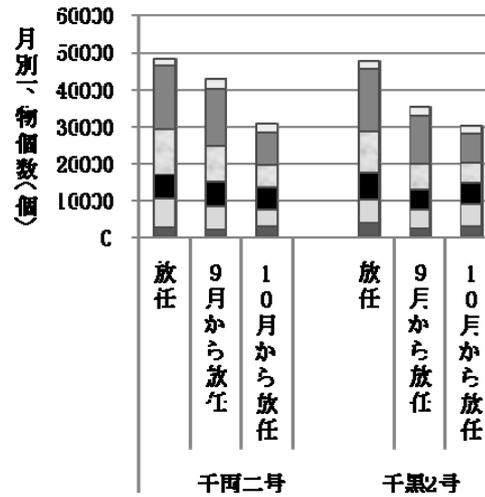


図3 各区の月別下物個数（10a 当たり）

表2 下物果の種類別個数（10a 当たり）

品種	放任時期	ガク割	スレ果	形状不良	艶無	キズ	虫害	チャック	割れ	焼け	小果	着色不良	他
千両 二号	放任	510	20,639	4,423	1,304	1,304	8,562	737	6,237	2,268	227	1,191	964
	9月から放任	510	13,268	3,572	907	1,701	9,015	340	5,897	2,041	227	397	1,077
	10月から放任	340	10,376	3,912	1,304	737	7,031	510	2,948	1,588	454	57	1,361
千黒 2号	放任	340	20,072	4,933	1,304	2,665	9,129	170	4,536	1,588	340	737	1,361
	9月から放任	113	13,211	2,381	624	1,701	8,165	397	3,005	2,381	227	964	1,474
	10月から放任	227	9,866	4,139	624	1,304	8,505	227	2,268	624	340	113	1,531